

近藤 則子氏



もっと使いやすくして

老テック研究会事務局長。総務省情報通信審議会委員。1992年より、電子情報通信学会のもとで老テック研究会活動を開始。セミナーやイベントを通じ、高齢者の情報技術（IT）利用を支援。57歳。

でも、初心者には、何がわからないかよくわからないので調べようがない。じゃあ、スマホを買ったお店で教えてもらおうと思っても、お店はいつも大混雑しています。それで、あきらめて、使わなくなってしまっている人が多い。つまり、泣き寝入り。私の50歳代の友人には、「ガラケーに戻したい」と言っている人がすごく多いです。

でも、戻そうにも売っていません。業界の人は「20015年にはスマホしかありません。んから」って平気で言います。じゃあ今持っているものを壊さないように大事に使うしかないのかしら。不安にかられます。

そういう状況なのだから、もっとスマホを使いやすくして、とお願ひしたい。

スマホの魅力は、パソコンよりも手軽に、ツイッターやラインなどのソーシャルメディアを使えることです。

お年寄りや障害者にとっても、使えるかどうかで、生活の質はすごく違ってきます。

スマホを初めて手にした時、使い方がわからず、困りました。

まず画面に表示されるアイコン（操作ボタン）。下に「時計」とか「天気」とか書いてあるけれど、問題はその先。設定法や変更の仕方の説明が

困った時に人とやり取りできない。それだけでも随分強いものです。耳の遠いお年寄りも多いので、災害時などに文字で情報を得られることはすごく大きい。

端末を作る技術者は、誰もやっていないような、素晴らしい機能を持たせようとしています。でも誰もやったことがないということとは、つまり誰も知らないということなのです。

初めてスマホを見て、これが電話をかける道具だとは思いませんよね。誰かが説明し、使い方を教えないといけない。

ガラケーもそうでした。電話やメールだけでなく、テレビを見たり、地図情報を得たり

ありません。わかる人に聞けば、あつけないほど簡単なことでも、ずいぶん戸惑いました。

それに電話がすごく難しい。かけることはできて、切り方がわからず、焦りました。番号を登録している電話

りできるのに、知らないまま使っているお年寄りがたくさんいました。やはりわかるように説明されていないからです。

私たちは、技術者と使う人をつなぐ活動をしてきました。スマホ時代の今、もっとそれが必要になっていると痛感しています。

地域に、駆け込み寺のように、相談できる場所をボランティアで作ったかどうか、と思っています。教える人は、退職した技術者や使いこなしている人。そこへ行けばスマホの使い方を教えてもらえるし、顔を合わせることで友達もできる。そんな好循環を目指したいですね。